

# 生きる力 山で育む

## 日原小放課後教室が森林活動

津和野町の日原小の放課後子ども教室「つわの育ちつわもの隊」が、森林活動「ウッフオラボ」を始めた。舞台は「美しい森林づくり条例」を定める同町の山。子どもたちは保護者や地域の大人と一緒に、自然と共に生きる力を学んでいく。(江川裕介)



倒した木をのこぎりで切る児童たち

### 初回の「きこり体験」好評

1回目の10日は、同町枕瀬の「友好の森」に1〜6年の計8人が集合。田口寿洋さん(38)ら町農林課林業チームの4人に間伐の意味や木の使い道などを聞きながら、「きこり体験」に挑戦した。

くくった縄を引っ張ってコナラやヒノキを倒したり、年輪を数えたり…。「空が見えるようになった」など、次々と気付きを口にした児童たちは、皮の感触や香りの違いなどに興味津々で、倒した木はのこぎりで切った。1年大石桜子さん(6)は「クリスマスの飾りにできそう。上手に切れて木が好きになった」と笑顔だった。

「つわもの隊」は6月にスタート。計算プリントの学習など週2回の活動に加え、月1回、芋ご飯やみそ汁などを作って家族や住民にも味わう「つわもの飯」

にも取り組む。ウッフオラボは「wood forest laboratory」の略。今秋まで地域おこし協力隊員を務めた山口大3年藤原緑さん(22)「山口市」が「山があふれているのに、遊ぶ親子が少ない」と、3月に始めた体験活動がベースで、簡易機械で伐採する自伐型林業を進める町農林課も後押しする。

月1回程度のペースで活動し、切った木は11月3日、キーホルダーなどの小物作りで活用。以降も昆虫採集やツリーハウス造りなど構想が広がる。放課後子ども教室を担当する町教委の矢上亜津子さん(32)は「山をどう暮らすに利用するか、何をしたら危ないか、などの知恵を身に付け、地域への愛着も育みたい」と話している。